

歴

史民俗資料館だより

No.32
文化生涯学習課
資料館係

妙法寺の仏像7軀が

茨城県指定文化財に！

本郷地区の妙法寺から、この
たび①木造阿弥陀如来坐像、②
菩薩立像、③天部立像、④⑤
木造四天王像が、茨城県指定文
化財に指定されました。

①③は中心から両肩までを
ケヤキの一木から造った一木造
りで「背削り」という平安時代
中頃の技法を使っています。

④⑤⑦も中心部が一木造り
で、古代の仏像特有の美しい造
形、その他の技法や表現から見
て、いずれも今から千年以上前、
県内の木造彫刻として最古級の
ものです。



①木造阿弥陀如来坐像

それに加えて、組み合わせが
良いのです。①は元は薬師如来
だった形跡があり、②③が梵天・
帝釈天のいずれか、④⑤⑦はそ
の通り四天王で、このセットは、
奈良・平安時代に公的に建てら
れた国分寺や郡寺に見られる組
み合わせなのです。

上野沼の西に新治廃寺遺跡が
あります。これは桜川市を含む
古代新治郡の公的な寺院でした
が、9世紀はじめに焼失しまし
た。これに続く時代の瓦が上野
沼のほとりにあります。ちよう
ど妙法寺の仏像が造られた頃で
す。妙法寺は戦国時代にここか
ら現在地の本郷へ移転したと伝
えます。

つまり、今回指定の仏像群は、
新治廃寺の仏像群だったと考え
られるのです。地方の郡寺の仏
像が確認されている例は全国に
も希有で、大変に貴重です。

歴史のことは 3月

「死して不朽の見込みあらば、
いつでも死ぬべし。生きて大業
の見込みあらば、いつでも生く
べし」『留魂録』吉田松陰

死んで後世まで志が残るな
らいつでも死ぬ。生きて大き
な仕事有成しえる見込みがある
なら、いつでも生きよう

『留魂録』は幕末の志士・吉
田松陰が、安政の大獄で処刑さ
れる直前に残した遺書です。

松下村塾で多くの門弟を育
て、明治維新の原動力を生み出
した吉田松陰。22歳の頃の松陰
は各地を旅し、真壁の町並み(桜
川市真壁町飯塚)付近を訪れた
ことが『吉田松陰東北遊日記』
に記されています。

日記には「弁天塚を拝み、浦
町、角口、西町、出羽、亀熊よ
り門井に向かい、西町長屋門宅
で休憩した」とあります。当時
の飯塚は真壁の町並みの西大通
で旅人の多いところでした。

歴史の風景

筑波山と平良兼の風景

桜川市役所真壁庁舎の西、桜
川を渡ると塙世地区があります。

塙世地区の桜川辺りから眺め
る筑波山は、雄大さが際立つ美
しい風景です。この付近には奈
良・平安時代の新治郡衙・郡寺
(筑西市)から国府(石岡市)
をつなぐ古代官道跡(幹線道路)
が残り、それは塙世―伊佐々
―羽鳥を経て湯袋峠を越え、国
府へと向かう道でした。

この道沿いの真壁町羽鳥の尾
根に平良兼館跡(たいらのよし
かねやかたあと)があります。
平良兼は平安時代に大勢力を持
ち、平将門の叔父で将門と戦っ
た人物でした。

古代官道からみた平良兼館
は、雄大で美しい筑波山を背景
にして、館の威厳を示したこと
でしょう。



平良兼館跡と筑波山 (塙世地区から)

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ